

今月のコラム

異業種5社との共同企画を発足



北越農事 田中昌彦

昨年の東日本大震災から2回目の春を迎え、今期の園芸シーズンはどう推移するのでしょうか。

昨年は、節電・省エネ・エコの流れによりゴーヤを筆頭に緑のカーテン向けのツル性植物が脚光を浴びて苗不足の状況になりましたが、今年もその傾向は続きそうです。

一方で今シーズンの動向を占う3月末の千葉県幕張での園芸イベントでは、昨年の中止によるブランクの影響と雨模様の天候が災いしてなのか、来場者数が一昨年の前回に比べてかなり少ないようでした。その上、震災復興・不景気による節約意識のあらわれなのか、大型・高額商品は敬遠気味のように感じられました。

そうした中、当社においては、ようやく春商材が動き始めたばかりの4月3日から4日にかけて全国に甚大な被害を及ぼした爆弾低気圧による暴風のために野菜苗の生産に多大な被害を受けました。また新潟では大雪による雪解けの遅れに加えて、4月になっても雪が降るほどの低温が続き生育にも大きなダメージを受けました。ここ数年来、異常気象という表現は使えないほど毎年何らかの天候の影響を受け続けています。

当社では、この時期は主に量販店向けに野菜苗の出荷をしていますが、今春から従来とは違う販売チャネルの開拓施策として、ネット販売限定で野菜苗付きの栽培セットを企画してみました。

新潟県内の異業種企業5社の共同企画として知恵を出し合い、お客様のニーズに応える商品創りに取り組みました。『必ず成功させて収穫の感動につなげる』を最大目標として、特にソフト面での価値付与に留意しました。

このような企画自体は先行商品も多々ある中で、後発としての差別化・優位性の出し方に工夫しました。結果はこれからですが、少しずつ実績を積み重ねて継続的に進化させていき、第2弾、第3弾と新たな企画を実現させたものです。

同じ業界だけの常識的な話合いではなくて、こんな事出来ないのか？ やったらどうなる？ 何故今迄なかったのか？ という??? だらけの質問責めに応えながら実現に向かって進んだ事は、退化していく一方であった私の脳に大きな刺激を与えてくれ、見方・考え方に他の業界の良い影響を受ける事が出来たと思います。目線の違いが新たな企画や商品を産み出す素になる事を再認識させられました。

今更遅すぎるのかも知れませんが、店頭で商品を確認して購入する店舗での販売が主体である事には変わらないながらも、世代構成の変化、インターネットの普及、流通・決済方法の進化等により、当社では遅れていたネット販売という形態へも適応して行かなければならないのが現実であると感じます。また、その方向への園芸分野での市場拡大の余地もまだまだ大きな可能性があり、今後もさらに次々と提案、投げかけを続けて行く事で将来の業界の成長へつながらるように、挑戦し実践する意識を持ち続けたいと思います。



『需要創造』をテーマに総会記念セミナー

「ガーデンビジネスの需要はまだ増やせる」
～新ネットツールの活用の現場から～ 坂田誠氏、谷本智子氏

「ガーデニングの可能性について」 深井麗雄氏

参加費：1人講演2000円、懇親会3000円 会員会社は1人無料
問合せ・申込みは事務局(TEL:052-571-7911)まで。
詳しくはホームページで。http://www.npogarden.com/houkoku.htm

ガーデンを考える会総会記念セミナーは6月12日14時より17時まで、上野東天紅会議室において開催します。

今回は『需要創造』をテーマにした2本立てのセミナーです。どのような可能性があるか、どのような方法で行えばよいか。これからのビジネスを考える上で聞き逃さない内容です。講演後は名刺交換・情報交換の懇親会もあります。奮ってご参加ください。

東日本大震災復興支援プロジェクト

『はじめよう 緑のカーテン』 5月25日～27日、新宿大久保公園で

日時 5月25日(金)～27日(日)11:00～17:00
(最終日のみ15:00終了)
場所 新宿区立大久保公園(JR新宿駅より徒歩約8分)
詳細はホームページよりhttp://www.npogarden.com/

植物生産から家庭園芸、緑化という緑関連と消費者が一体となって「緑のカーテン」を広めようというもので、ガーデンを考える会と屋上開発研究会が主催し、新宿区が後援、都市緑化機構特殊緑化共同研究会が協賛しています。

昨年3月の東日本大震災以降、民間、公共を問わず節電の影響により、緑のカーテンが大きな注目を集めています。節電のため、緑のカーテンを始めた方の中には「植物の栽培」自体が未経験の方が多くいました。

しかし、我々緑関連業界は、資材や苗の供給で精一杯で、消費者への十分な栽培フォローや適正な品種の紹介が不十分でした。

この反省をふまえ、大久保公園で緑のカーテンイベントを開催することで、栽培の仕方や品種の紹介を行ない、緑のカーテンを広く普及することを目指しています。参加費無料。

また、東日本大震災復興支援プロジェクトとして位置づけており、売上金の10%を支援金として新宿区から赤十字社に、ガーデンを考える会も売上金を支援プロジェクトに使います。



海外研修ツアー

「フロリアード&ハンプトンコート フラワーショー」視察研修

締切り5月15日

オランダで10年に1回開催される世界園芸博覧会「フロリアード」がフェンローで、そして伝統ある世界のフラワーショー「英国・ハンプトンコートフラワーショー」が開催されます。

この2大花イベントを見て、さらに欧州トップガーデンセンター、花の生産流通、さらに「オランダ・ベルギーと英国の名園」を視察研修します。

この機会に、当会が主催する研修ツアーに参加し、今後のビジネスにつなげていただければ幸いです。

詳細はホームページより http://www.npogarden.com/houkoku.htm





10年に1度開催されるフロリアード開幕

世界で最高位の園芸博覧会、10月7日まで

2012年フェンロー国際園芸博覧会が4月5日開幕され、10月7日まで開催される。

園芸にしぼった特別博だが、規模では万博に匹敵する大博覧会として、博覧会国際事務局 (BIE) に認可された博覧会で、国際園芸家協会 (AIPH) がA1クラスの園芸博覧会として認可している、世界でも最高位の園芸博覧会。

日本は、1990年に大阪市で開催された国際花と緑の博覧会をきっかけに、直後の1992年から参加しており、今回で3回目の参加となる。

今回のフロリアードのテーマは、「Be part of the theatre in nature, get closer to the quality of life(自然という劇場の一部になって、生活の質『クオリティ・オブ・ライフ』を高めよう)」。これは、園芸と地域社会の自然ならびに文化との共存を目指し、人と自然が持続的に発展できる関係を探っていこうとするものである。

<http://www.floriade2012.jp/>



FAJがiPhoneなどでセリに参加

リモートセリシステム「Fitsオークション」開始

(株)フラワーオークションジャパンは、花きセリシステムにリモート参加機能を追加し、インターネット接続の環境があれば、どこにいても同社のセリに参加できる新システム「Fitsオークション」を4月から開始した。

このシステムは、パソコンやタブレット、スマートフォンなどの端末を使い、自宅や外出先など、どこからでも同社のセリに参加できるシステム。明電ソフトウェア(株)と共同開発した。



iPad版 Safariでの表示
(応札モード)

JFIグループ春の商談会、豊明花き会場

出展・来場ともに若返りが進む、600小間近いブースで大活況

日本最大の鉢物市場である豊明花きで3月3日、同市場とフラワーオークションジャパンなどで構成するJFIグループ主催の商談会「JFIトレードフェア2012春 豊明」が開催された。

日本全国から苗物・鉢物の生産者が集まる同フェアは、国内最大級の植物商談会として定着している。当初は450小間の募集であったが、応募が多く592小間へと規模を拡大。豊明花き・福永社長は「断ったところもあったので、600小間にすればという気持ちもあったが、月曜日のセリ日の入荷もあり、現場ではぎりぎりまで規模を広げた」と話し、「フェアを始めた頃は、苗を台車に並べるだけの出展者が多かったが、近年、商品・展示とも格段にレベルアップした」と感想を述べた。

常連の買参人からは「会場にいる人が若返っていて世代交代が進んでいるのがよく分かった」といった声が聞かれ、また、「規模が大きくなり展示もレベルアップしたので、商談時間が足りない」と、充実した内容に開催時間の延長を望む意見も聞かれた。





カエデ
kaede



散歩もガーデニング

株式会社グリーン情報 伊藤賢治



園芸業界誌「GardenCenter」の編集をして、今年で6年目になります。もともと花は嫌いではなかったのですが、積極的に趣味にするほどは興味がありませんでした。ですので、はじめはまったく園芸の知識がなく、入社後すぐに取材に行った園芸店では、「寄せ植えて何ですか?」「プランターって何ですか?」と、取材以前の質問ばかりをして、お店の人を困らせてしまったのを覚えています。

それでも、いろいろな園芸店や生産者さんのところへ行ってお話を伺ううちに、だんだんと花の名前を覚えていきます。名前が分かるようになると、俄然、園芸の売り場を見るのが楽しくなってきました。「これは…オステオ?」「これはブラキカム?」など、単語帳の答え合わせをするように花苗のラベルを覗き込み、当たっているとひとりニンマリ。

普段の生活でも花を意識して見るようになりました。すると、いつも何気なく歩く散歩道や通勤路がすごく楽しい風景に変わってきました。道沿いに咲いている水仙に春の訪れを感じ、ミモザの鮮やかな黄花に目を奪われて、酷暑にもへこたれないジニアの強さに感心し…季節の移り変わりを感じさせてくれるのは、いつも道端に咲く植物たちです。最近では、「散歩で見かける草花たち」という本を鞆に忍ばせ、気になる花を見かけると調べたりすることも。そんなことがすごく楽しく感じます。

こうしてみると、庭で花を育てるだけでなく、散歩道で季節の草花に興味を持ったり、そこに目がいくということも、大きな意味ではガーデニングなのかな?という気がします。そして、はじめは園芸に興味なかった自分が草花に目を留めるようになったのは、園芸店や生産者の人が植物についてあれこれと教えてくださったことがきっかけになっていると思います。同じように園芸店や生産者さんの知識が一人でも多くの人に伝わり、園芸ファンが増えていくことを願っています。

会員紹介

(株)牧野

弊社は昭和50年創業の園芸用土のメーカーです。鹿沼土・赤玉土・培養土・堆肥・肥料・水稻培土等約200種類のアイテムを製造販売しています。きれいな花が咲く「土」、おいしい野菜が採れる「土」、自然環境にも優しい「土」をつくっていきたくと思っています。これからもお客様に愛される「土」づくりに励んでいきますので、御愛顧のほどよろしくお願いいたします。



〒322-0303 栃木県鹿沼市久野 61-1
TEL:0289-85-3325 FAX:0289-85-3966